

2017年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、中緯度帯で波列パターンが卓越し、中国東部、アラスカの南、北米北東部、ヨーロッパ西部で正偏差、カムチャッカ半島、ヨーロッパ東部で負偏差となった。200 hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流はユーラシア大陸上で強く、東アジア～太平洋では偏西風は平年の位置と比べて北寄りを流れ、特に日本の東海上で強かった。海面気圧は、極付近は正偏差、北緯60度帯はシベリアを除いて負偏差となった。また、ユーラシア大陸東部～太平洋の中緯度帯で東西に正偏差が分布し、シベリア高気圧の南東への張り出しが強かった。850 hPa 気温は、カリフォルニア南西沖、北米北東部～グリーンランドの東、ヨーロッパ西部で高温偏差、ユーラシア大陸中緯度帯～オホーツク海周辺で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、南シナ海～フィリピンの東海上と中米で活発、インド洋赤道域、東経150度以東の太平洋赤道域で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、インド洋～南米を東進した。対流圏上層では、インド洋～インドネシア付近で南北半球対の高気圧性循環偏差、東経150度～太平洋東部で低気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、インド洋～太平洋において対流圏上層と逆の偏差

パターンがみられた。海面気圧は、熱帯域の広い範囲で負偏差となり、特にフィリピンの東海上で負偏差が明瞭だった。南方振動指数は+1.1だった。

世界の天候

2017年10月の世界の月平均気温偏差は+0.31°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。10月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.66°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

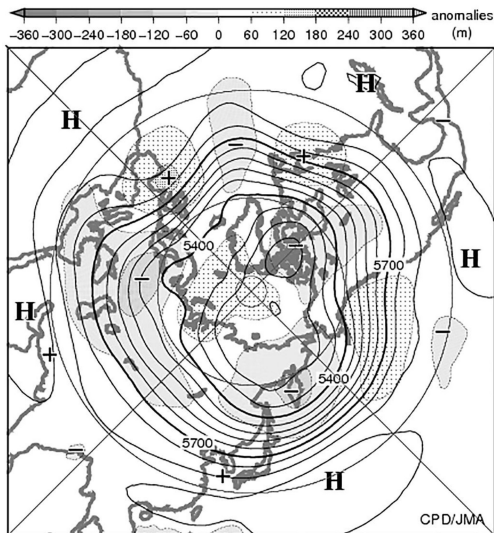
- ヨーロッパ東部で異常多雨、ヨーロッパ南西部及びその周辺で異常少雨となった。
- モーリシャス～マダガスカルで異常高温となった。
- カナダ南東部～米国北東部、米国南西部～メキシコ北西部で異常高温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

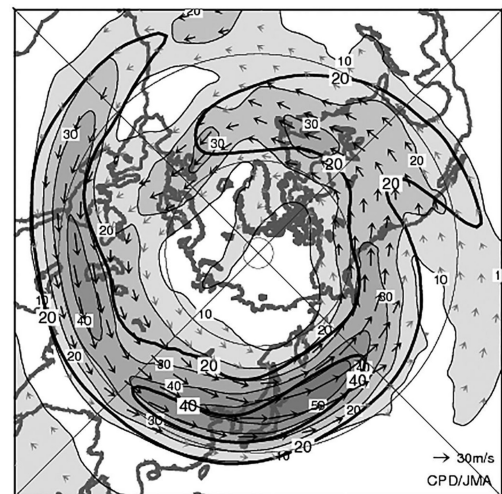
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



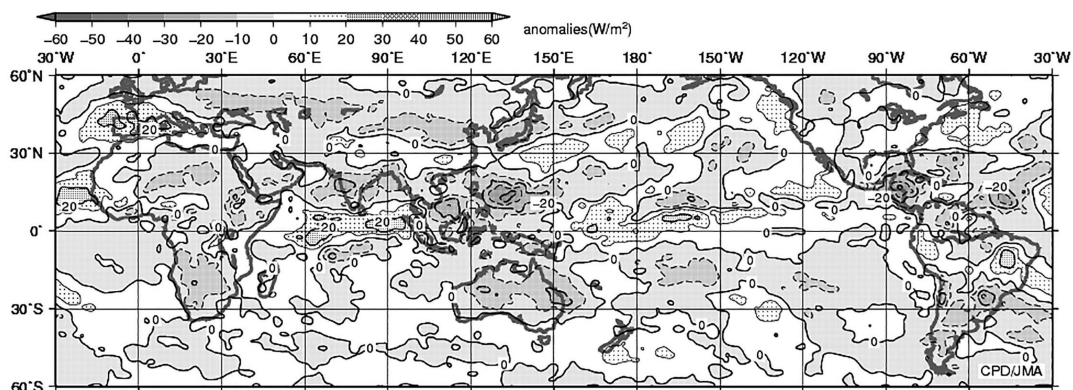
2017年10月の北半球月平均 500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

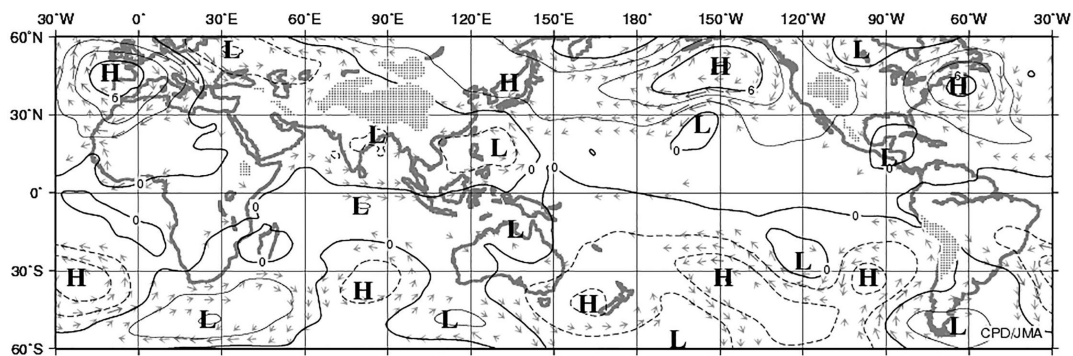


2017年10月の北半球月平均 200 hPa 風速及び風ベクトル

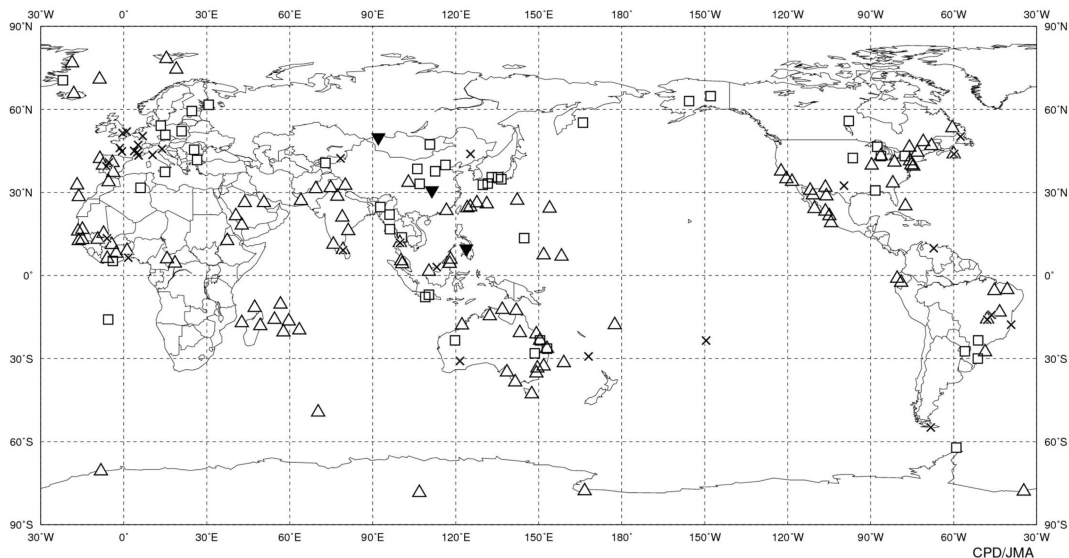
等値線間隔は10 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2017年10月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2017年10月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1981～2010年の平均値。



2017年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。